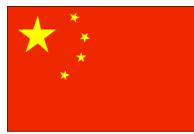


COUNTRY RISK WEEKLY BULLETIN

11 March, 2009

IN THE HEADLINES



中国

2月にCPIが前年同期比1.6%下がり、デフレの再来となった。その主要因は食物価格の下落だったが、非食物の統制価格も下落した。その他の非食品価格は下落しなかったため、最新の数値は長引くデフレの前兆ではない可能性もあり、消費の刺激を促すかもしれない。いずれにしても根強いデフレは脅威であり、最新の貿易統計を見る限り(輸出は前年比で23%減少)、経済成長は内需によって達成される必要があることを示している。この関係で、2009年における政府の財政赤字目標のGDPの3%という水準は(計画投資の内容は不透明だとしても)、信用供与の拡大に貢献するだろうし、実際、都市部の投資は上向いてきている。



ルーマニア

実質GDP成長率は、内需外需共に落ち込んだことを受け、第3四半期の9.2%に比して第4四半期には前年同期比で2.9%まで急激に減速した。2008年の経済成長率が7.1%と、3年間の経済の過熱の後、2009年は2%以上のマイナスと、大きな打撃を受けることだろう。経済危機の潜在的な悪影響の大きさに気づいた政府は、今年1月には大統領によって拒否された、IMFに支援を求めることとした。今後2週間のうちに当局は、ハンガリーに対して昨年11月に供与された250億ドルの支援策に類似した、多国籍による支援パッケージを協議することになるだろう。



ブラジル

今週発表された実質GDPの統計は、昨年第4四半期に関して、前四半期比で3.6%縮小(季節変動調整後)という、予想以上の急激な落ち込みを見せ、最悪の予測を決定付けることになった。前年比では経済は辛うじて1.3%の成長を見せたが、第3四半期までの3四半期の成長が6%以上だったことと比べると落ち込みは顕著である。工業生産はとりわけ打撃を受けており、統計によれば前年比で17.2%落ち込んでいる。2月のデータではインフレが引き続き沈静化していると見られる中、次回の金融政策委員会においては更なる大きな金利引き下げが行なわれるだろうが、2009年を通してのGDPの成長はせいぜい横這いといったところだろう。



トルコ

最近の経済データは、引き続き2009年が景気後退期にあることを示している。工業生産の縮小は1月には前年同期比21.3%となり、6ヶ月連続の下落となった。商品輸出は1月に、前年同期比25.7%落ち込んだ。製造業の設備稼働率は、前年の79.3%から、今年の2月に63.8%まで落ち込んだ。2009年の実質GDPは少なくとも2%は縮小することになるだろう。1-2月にかけてはその水準を堅持したものの、3月に入ってからのトルコリラはユーロに対して6%下落し、3月6日に対ユーロ、ドル共に最安値を記録した。

ALSO IMPORTANT...



ラトビア

深刻な経済危機と12月から実施されているIMFが支持する緊縮経済プログラムに対する、大衆による大規模な抗議集会を受け、ゴドマニス首相は2月末に辞職した。ザトラー大統領は、新政権を形成するために野党New Era党のDombrovskis氏を指名した。しかし、新しい連立政権が、105億ドルに上るIMF支援のために必要な緊縮財政を達成するための予算削減が出来るかは不明である。次期首相となるDombrovskis氏は既に5%の財政赤字目標は非現実的であると警告しており、一方でラトビアはIMF支援がなければ6月までに破産するとしている。厳しい交渉がされることになるだろう。



キューバ

弟より正式に権力を委譲されてから1年、ラウル・カストロは、内閣の大幅な刷新を行なった。更迭された主要な関係の中には、フィデルの被後見人であるロック外務大臣および、長きに渡る経済政策の立案者である内閣書記長のLage氏などが上げられる。この動きはラウルの政権掌握に役立つだろうが、経済に与える影響は不明瞭である。しかし、特に昨今の世界的な景気後退の中、リベラルな改革への大きな方向転換は考えにくく、今般の内閣人事の変更が米国の新政権との協議には役立つだろうが、いかなる2国間の関係の正常化は、それが双方の目的であったとしても、長く陰しいものになるだろう。

COUNTRY REVIEW SUMMARIES



アルゼンチン

国会の中間選挙を前に、特にクリスティーナ・フェルナンデス大統領の支持率も低い中、政策実行は制限されるだろう。輸出関税をめぐる農民との長期間に亘る争議とインフレ政策に関する不透明性も支持率には寄与していない。国際金融へのアクセスが殆ど無い中、公的債務の状態は脆弱である。目先の利払いは可能に見えるが、財政バランスはコモディティ価格と今年のGDPの縮小に対して脆弱である。十分なプライマリーバランスが達成されるためには支出が削減される必要がある。対外経常収支は赤字になることが見込まれ、為替レートにも圧力がかかるだろう。



セルビア

現状でリスクが高い経済が、今般の世界的な金融危機によって悪化し、地場の金融市場および銀行システムに圧力をかけ、対外的な資金調達へのアクセスが減少した。GDP成長率は急激に落ち込み、ゼロとなるだろう。USD5.3億ドルのIMFのスタンプバイ取極が1月に合意されたが、急速な経済の悪化により、当局は、USD25億ドルに上る追加のIMF支援策を要請する事態となった。セルビア・ディナールの対ユーロの為替レートは2008年9月以降23%下落し、この後更に下落することが見込まれているが、これはセルビアの銀行及び企業に対して深刻な為替リスクを負わせることになるだろう。

IN BRIEF

アイスランド

4大銀行のうち、最後の1行であった Straumur-Burdaras 銀行が、月曜日に国有化された。

Edited by Andrew Atkinson

The content of the report (which is subject to change without notice) reflects only our opinion, which is based on information received by us. Accordingly no warranty, representation or other assurance is given as to the accuracy or completeness of the report. The report is for general information and is not intended to address any requirements you may have, for which you must obtain independent advice. The report does not constitute any form of advice, recommendation or arrangement by Euler Hermes UK plc or by the Euler Hermes Group of Companies and must not be relied upon in the making of any decision, agreement or arrangement. © Euler Hermes UK plc 2008.